

あなたもねらわれている 「カゼ」にご用心

今年もまた、インフルエンザの流行期を迎えました。毎年全国的に猛威をふるうインフルエンザですが、この冬も大流行の兆しをみせています。油断大敵—たかがカゼぐらいと、あなどらないで予防と感染時の治療には十分な配慮が心要です。

こわい余病誘発

インフルエンザにかかりやすいのは乳幼児と小学生、また死亡率では、老人が圧倒的に高くなっています。乳幼児・小学生・老人—つまり、体の抵抗力の弱い年代が最もかかりやすいので、家庭ではとくにその点の配慮が必要でしょう。というのも、インフルエンザがこわいのは、抵抗力が弱くなって肺炎などの余病を誘発するからなのです。



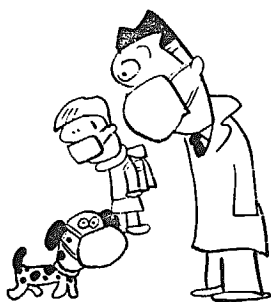
から、注意が必要です。病氣に対する抵抗力を保持するためには、節制をして体に疲労が残らないようにすること。そのためには睡眠を十分とり、栄養のバランスを心がけることが大切です。カゼぐらい、などといったいかげんを気持ちで放っておくと取り返しのつかないことにならないともかぎりません。インフルエンザは初期のうちに治してしまいうことが大切です。



予防とかがつた 時の注意

外出にはマスク 帰ったらうがい

インフルエンザが流行している時の外出は、感染の機会が増えるだけでなく、ほこりや冷たい外気はのどを痛めます。さらに人ごみの中では心身ともに疲れ、体の抵抗力を弱めますので、老人や妊婦、慢性の病氣のある人は、不必要な外出は避けた方がいいでしょう。どうしても外出をしなければならぬときは、マスクをし、帰ったらすぐウガイをするように心がけてください。



ウガイは、のどを洗うのが目的

ウガイは、のどを洗うのが目的です。水道の水でも十分です。外出から帰ったらすぐウガイを。

かかったら外出を 避け安静に

山田第二 池 幸治さん
社会福祉協議会へ、五千円を
寄附

インフルエンザにかかってしまったら、何はともあれ、安静を保つことが先決です。熱が出たり症状がひどい場合は、すぐ医師の診療を受け、その指示に従ってください。要は、「短期決戦」に徹することです。というのも、中途半端にぐずぐずしていると、いたずらに体力を消耗するばかりで、結局こじらせ寝込んでしまうことが多いのです。外出は、体力の消耗に輪をかけてことになり、病状を重くしてしまいます。のみならず、インフルエンザ・ウイルスをまき散らすことになり、周囲の人に大きな迷惑をかけます。かかったときは、自分のためにも周りの人のためにも外出は極力つしませましょう。

自治用語一口メモ

地方債(町債)

どこの市町村でも大きな事業を実施する場合、自治大臣や都道府県知事の許可を得、政府や市中銀行などから長期にわたって資金を借り入れる。これを地方債と呼びます。

昭和五十二年度決算による、地方債(町債)の総額は五億九百二十万円にものぼり、あまりよい傾向とはいえません。

地方債は、後年度の財政運営に負担を及ぼす、いわゆる借金ですから、建設事業費の財源、出資金貸出金の財源、公営企業を経営など一定の事業の財源として発行する場合に限り認められており、いわゆる赤字地方債の発行は原則として禁じられています。

昨年完成した、総合体育館を例にとってみますと、駐車場の舗装なども含め建設費総額五億九千三百九十二万円の内、国庫補助金が一億二千万円、一般財源二億二千二百三十四万円、地方債は二億六千二百八十八万円の巨額にのぼっており、町税、国庫支出金、地方交付税に次ぐ主要な財源になっています。

《銅賞》税金でみんなて築くよい郷土

2月28~3月13日

春の火災予防運動

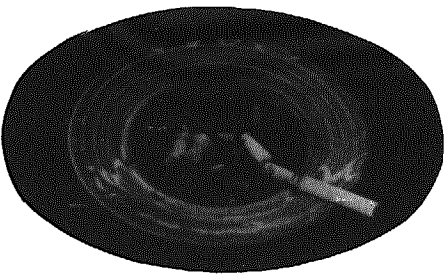
春先は火災の多発期

春先は一年のうちでも火災の多い時期です。火災による犠牲者も多く、五十二年はこの二か月間で年間死者の約三割を占めています。今年も、二月二十八日から三月十三日まで、「春の火災予防運動」が行われます。

移動する火元 たばこが火災 原因のトップ

出火原因で最も多いのは、たばこの不始末で、昭和三十五年以来連続十八年間、件数、損害額ともにトップの座を占めています。

五十二年中のたばこによる火災は、全国で九千九百九十九件発生し、損害額は約百二十一億円と前年の五十一年に比べて十四億円も増えています。さて愛煙家は全国で約三千五百万人。つまり、国民の三人に一人が、一日当たり男性約十人、女性約十六人—合計すると、一日に全国で約八億二千五百万本のたばこが吸われている計算になります。



摄氏700度

喫煙は、朝起きてから夜寝るまで、しかも時と場所を選びません。当然のことながら、たばこという「火元」は喫煙者とともに移動し、生活のあらゆる場で一歩間違えば出火の原因になる危険性を秘めています。

たばこは、火源としては小さいが、燃焼温度は七〇〇度〜八〇〇度です。私たちの身の回りには、この温度以下で着火する可燃物がたくさんあります。たばこを吸う方は、いま一度正しい喫煙管理の実行を心がけてください。

ださい。

留守中の火災

留守の間に火事になり、出火原因を調べてみると、座ぶとんに落ちていたたばこの火が原因だったなどというケースがしばしばあります。東京消防庁が調べた「ぶとんにたばこの火が落ちて出火するまでの時間」によりますと、最も多いのが「一時間以上—二時間未満」

投げ捨て、落下、消し忘れ

たばこの「三大失火原因」

たばこによる火災で多いのは、投げ捨てによるもので、六割(五千四百六件)を占めています。これは、そのほとんどが喫煙者のマナーの悪さが原因といえるでしょう。

捨てた吸いながら、老朽化した床板に落ちて火事になったり、クルマの中からポイと投げ捨てたのが紙や芝草、踏み板などに燃え移ったり—。また、たばこによる林野火災の千二百七十二件は消し忘れなども含めて、大部分が喫煙者の不注意によるものです。投げ捨てに次いで多いのが、灰皿などに置いていたたばこが落ちたもので、千二百四十九件(一四%)

で全体の約三割。次いで「二時間以上三時間未満」(二二%)、「三時間以上一時間未満」(一七%)などとなっています。たばこの火の場合、出火までの時間がかかり長いのが特徴です。ですから、たばこの火の不始末の場合、気がつかないでいる限り「留守中の火災」も十分あり得るのです。お出かけ前には、もう一度、たばこの火の始末を確認してください。

こたつにあたりながらたばこを吸い、火がふとんに落ちたのに気がつかず、火事になった。また、床の中でたばこを吸い、そのまま眠ってしまったため、たばこがふとんに落ち、火災になった—など。

たばこによる火災で、三番目に多いのが、消し忘れで、八百六十三件(約一割)、くわえたばこで物置きに入り、段ボール箱の上に置き忘れた。あるいは、灰皿の上に置き忘れたたばこが、近くにあった新聞紙に着火し、火事になった—。

八三%にもなります。マナーの悪さと不注意—たばこによる火災が減らないのは喫煙者の「自己管理」の不徹底にあるといえます。

住くらしの知恵

近代住宅になって窓にはアルミサッシがつかわれたりして、なかなか快適な生活ができるようになってきました。しかし、アルミサッシの溝や敷居カーテン、ソファなどの掃除にはなかなか手こずる場合が多いものです。電気掃除機万能の世の中でも小回りのきくようには作られていません。

そこで荒神ぼうきが見直されています。草やシロでできたもので、小ぼうきです。昔はかまどやストロブ、いろりなどのそばでよく使われていたものですが、今でも利用範囲の広い掃除用具の一つでしょう。このころは塩化ビニールでできたものもありました。

アルミサッシの溝やカーテン、ソファ、車のなかやトイレなどの狭い場所の部分掃除や、ちよっとゴミやほこりも、小ぼうきが手近にあれば手軽にとりかきやすくなります。また、卓上のパンくずやテーブルや椅子の周りなどのちらかかしにも小回りがきいて便利なもの。

《佳作》見直そう暮らし豊かな税の力を